

部会総会報告

営農部

花卉部会

第34回総会

R6・9・10 ※台風接近のため書面決議

次世代につなげる菊池ブランドの構築を目指します

令和6年度の事業方針などを決議。役員改選では、部会長に野中三裕さん、副部会長に井主哲郎さん、野中大嗣さんが就任。多様化する花の楽しみ方に合わせた生産出荷を行い、SNSなどによる情報発信で消費拡大を図り、次世代につなげる菊池ブランドの構築を目指します。また、高品質で長持ちする花の安定供給と後継者が生産を続けられる産地基盤づくりに努めることなどを決めました。

主力品目である「カスミノウ」専門委員長に坂本悠三さん、「トルコギキョウ」専門委員長に本山達也さんを選任。現地検討会の充実で品質向上を図ります。

女性部による消費拡大宣伝会の実施などを重点項目とし、消費者ニーズにあった信頼ある高品質で、安全・安心な鮮度の高い花きを安定供給するための取り組みを進めます。

〈優秀農家表彰〉

阪本俊浩・朋子・貢紀、本山達也、宮本幸伸・佐登美久川裕徳・智子、菅誠輝・仁美、赤星光範・淳子・浩貴、増永勇二郎・由紀子、梁池省吾、渡辺公誠・康代、井主哲郎・菊代

〈立毛品評会表彰〉

金賞＝阪本俊浩、銀賞＝中島司人、銅賞＝米村靖範

〈カスミノウ日持試験表彰〉

金賞＝牛島誠治郎、銀賞＝阪本俊浩、銅賞＝坂本悠三



新部会長 野中さん(左)
前部会長 岩下さん



部会総会報告

営農部

メロン部会

令和5年度総会・出荷実績報告会

R6・8・27

販売対策強化で高単価確保

令和6年産春メロン・5年産抑制アールスメロンの出荷実績報告会。「24年輸送問題」対策として集荷日の限定、ロット数の確保、SNSを活用した市場・産地との情報交換を密にするなど努力しました。企画を組んでの売り込みによる販売対策強化も行い、高単価で昨年並みの販売高を確保することができました。

春メロンの品種は「アンデス」「フェスタ」「イエローキング」で、19戸が4.2ヘクタールを栽培。栽培面積の減少や天候不順などによる栽培環境の悪化にも負けず、昨年同様の3L以上中心の大玉傾向で出荷することができました。出荷量は減少したものの高品質を維持し、販売実績7416万円(前年対比90%)、1ケース10kg平均単価2956円(前年対比122%)。秋メロンの品種は「アールス」で、販売実績679万円(前年対比100%)でした。

役員改選では、部会長に古荘正光さんが再任、副部会長に本田真也さんが就任。栽培講習会や現地検討会を強化し高品質で、消費者ニーズに合ったカット可能な大玉生産に取り組むことなどを決め、メロン産地の維持と農業経営安定を図ります。



古荘部会長
あいさつ



〈優秀農家表彰〉

春作の部
古荘正光・貴美子
本田真也、
後藤秀孝・眞津代
栗原康敏・三枝子
秋作の部
宮崎文昭・恵美

部会活動

体操教室でリフレッシュ!!

イチゴ部会

いよいよ苗植え到来!

9月から苗植えが始まり、管理、収穫、出荷と忙しくなります。そんな農繁期を前に、身体を整えようと体操教室を開きました。東京から菊池に移住した宮さんに、身体の仕組みを学び、今回は腰痛改善体操の一部を身体を動かしながら教えていただきました。



身体が軽くなりました!



足の筋肉ほぐし



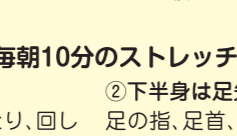
手先からほぐしましょう



体チェック

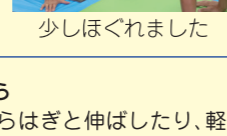


固まっていた腰も



②下半身は足先から

足の指、足首、ふくらはぎと伸ばしたり、軽いたいたりして筋肉をほぐしていきましょう



少しほぐれました

JA 菊池

講師は
宮海彦さん

宮さんプロフィール

東京都出身、幼少より体操競技を始めインターハイでは種目別優勝。青年海外協力隊に2年間参加、農(自給自足)や自然環境の大切さを学ぶ。アメリカで就職。その後、サーカスグループ「シルクドゥソレイユ」へ入団。10年間世界各地を公演。引退後、農や自然環境を大切にする生き方を模索。自転車で日本を1周し、菊池市での移住を決める。農業とエンターテインメントを掛け合わせた農業の素晴らしさを伝える「農タメ」を2022年2月よりスタート。

※いぶき7月号で紹介。家の光10月号にも登場。

※緊張したり、力が入ったり、同じ姿勢で長くいると筋肉が固まります。気が付いた時に筋肉を緩めてあげましょう。

すいか部会

第17回総会・令和6年産出荷反省会

R6・9・3

品質の安定と大玉比率も良く高値で取引

令和6年産販売高が9億7400万円(前年対比111%)。面積の減少も続く中、青年部を中心とした若手の頑張りにより、品質の安定と大玉比率も良く高値で取引され、販売高を伸ばすことができました。

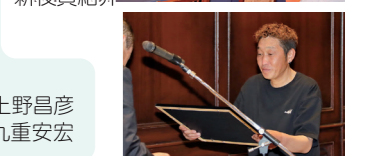
品種は大玉「春のだらんRV」を中心に、昨年より試験栽培する「金色羅王」の温度管理を見直したことで糖度も高く安定し、食味も良いと好評。栽培管理が難しく生産者へのリスクはありますが期待される品種です。小玉は「ひとりじめ7EX」「BonBonリッチ」。

令和6年産栽培面積は84.6ha、部会員61戸。①基本技術の徹底②出荷時期と商品性の向上③担い手育成と生産基盤の維持④安全・安心の取り組みの4つの目標を掲げ、安定生産と「菊池すいか」ブランドの確立を目指します。

役員改選では、部会長に安武茂さん、副部会長に大谷恭生さん、林祐一さんが就任。品質・収量の安定、需要期の出荷比率重視と安定供給に努め、販売市場への生産出荷情報の発信、光センサーを利用した有利販売に努めます。女性部による販促の充実を図ることなども決めました。



三山部会長
あいさつ



〈糖度優秀者表彰〉

「大玉スイカ」上村勝徳
「小玉スイカ」上野浩幸

〈品質優秀者表彰〉

「大玉スイカ」村上正剛、上野昌彦
「小玉スイカ」中島洋一、九重安宏

人参部会

第25回部会総会

R6・9・12

山隈部会長
あいさつ

品質の向上と推奨品種による統一化に努めます

令和6年度の事業方針などを協議。役員改選では、部会長に上田晃太さん、副部会長に今村将吾さんが就任。部会員60戸、作付面積175haで、販売数量5600トン、販売高5億6千万円を目指します。適正な施肥と推奨品種を中心とした作付けにより、品質向上と統一化に努めます。

令和5年度産秋冬ニンジン、播種期の高温干ばつや急な粗雨による生育のばらつき、収穫後半の降雨続きなどによる品質低下が見られましたが、全国的な品薄により高単価で推移。春ニンジンでは、生育期および収穫期に降雨が多く出荷量は減少しましたが、秋冬ニンジンに引き続き高単価を維持しました。

秋冬、春、加工トータルで4900トンを出荷(前年対比94.7%)、販売高5億6千600万円(前年対比116.3%)でした。

